朝日新聞
2013年7月11日

中国輸出弱さ露呈

6月3.1%減、3年7カ月ぶり

中国経済の減速は、世界が期待する消費意欲にも影響を与えかねない＝成都市内の日系スーパー

中国経済を引っ張る輸出の不振が深刻だ。中国の税関総署が10日発表した6月の貿易統計では、輸出は昨年6月に比べ3・1%減となり、旧正月連休の影響で変動しやすい1～2月を除くと、前年同月比で3年7カ月ぶりの減少となった。中国の成長が減速し、世界景気の腰折れにつながる懸念が高まっている。

中国国内では、輸出の増加が続くと見込む金融機関が多かっただけに「驚きの弱さだ」（大手の申銀万国証券）と声が上がる。1～2月以外で輸出が減ったのは2009年11月以来。リーマン・ショックの影響を脱し、昨年の欧州危機の際も増加を保っていただけに、減速ぶりが際だつ。税関総署は「世界的に需要が弱いことに加え、人民元高や賃金上昇でコストが高まっている」ことを理由に挙げる。

さらに中国の統計特有の事情もある。今年1～4月の輸出は、いずれも前年比10%以上のプラスだった。ただこの数字には、架空の輸出を作り上げて中国国内に持ち込まれた投機資金が含まれ、「水増し」されていた疑いが強い。こうした手口への取り締まりを当局が強めた5月以降の統計では、輸出の実態が想定外に弱いことが示されている。

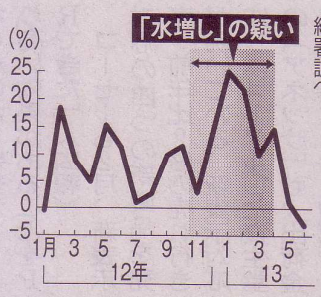
輸出は、投資と並んで中国経済の成長を支える「二本柱」だ。ただ投資でも、資金源となっている「影の銀行」と呼ばれる融資手法の規制に当局が乗り出しており、今後の増加が見込めるかは不透明だ。

市場の関心の焦点は、15日に発表される中国の4～6月国内総生産（GDP）の成長率だ。1～3月は前期比0・2%減の7・7%となり、「予想外の減速」と受け止められた。主要金融機関の予測を平均すると、4～6月は7・5%になることが見込まれる。

旺盛な消費で世界景気を引っ張る役割も期待されていた中国の変調は、他国へ波及する可能性がある。6月の日本から中国への輸出は、昨年6月から16・3%も減った。円安で輸出増を期待するアベノミクスに冷や水を浴びせかねない。

10日、米中戦略・経済対話がワシントンで始まった。中国のもたつきが景気回復の足かせとなることを危ぶむ米国側は、輸出頼みから脱却し、内需を拡大するよう中国側に求める見通しだ。

（ワシントン＝斎藤徳彦）



中国の輸出が急減速した
前年同月比の増減率。中国税関総署調べ